

季節便り

真鍋 都子（愛媛県新居浜市・五十七歳）

この十三回忌に、貴方の知らない人が二人いたと思います。娘の夫と孫です。月日は流れ、貴方はおじいちゃんですよ。孫は1歳になる女の子です。どこか、貴方にも似ています。可愛いですよ。共働きで子育てした頃を懐かしく思い出します。当時のビデオを持ち出して見ては、その時の思いを語る時があります。

貴方が癌になり旅立った後のその姿は、今になって思えば物体でした。感情もぬくもりもない姿が、この世から消え去ることなのでしょう。あの日を境に、「僕はこの世にいて、君はこの世に残る人だ。」と言った意味の深さを、私は孤独という現実で知りました。でも、事あるごとに、自分が強くなったように思います。友達は私のことを逆境に強い、とからかいます。過ぎ去る日々の中で身についていったのでしょね。貴方は死んだら般若心経を書いた千羽鶴に乗って飛び回ると口にしていた事を思い出しました。千の風のように、私と娘を見守ってくれているから、私も子供も今、幸せでいられます。新しい家族が増え、ありがとうございますと感謝しています。

貴方が癌になっても、前向きに生きて、家族の絆を大切に、皆さんに支えられた事で、亡くなった後の喪失感は大きかったけれど、頑張って生きてこれたように思います。娘が嫁いだ後と同じ想いでした。時折、無性に貴方に聞いてもらいたくなる時があります。あの頃、誰にも言えないことも夫婦だから話せた。そばにいてだけで良かった。安心感私のエネルギーになっていたように思います。それが無い今、つらいです。貴方にだけは頑張る私を褒めてもらいたい。聞いてもらうだけで自分がこれから生きていける糧になる気がしてこの手紙を書きました。私は、五十歳を過ぎてパーキンソンという病になりました。が幸い、良い先生との出会いによって、仕事ができています。何より考え方が変わりました。今を一日一生のつもりで八十三歳までは大丈夫と言われたので逆算して楽しむようにしています。

これからの人生をあちらからの迎えが来るまで生きて、貴方にいい報告が出来たらと思います。生き様は死に様と言います。貴方が私に徳を積んで修行してといった、その意味が今ようやくわかった気がします。

そちらの生活はいかがなものでしょうか。見えない形でエネルギーを注いでくれているのでしょね。ありがとう。